

声・担当者に聞く

成長と変化

日生病院図書室
千住 とも子

「近畿病院図書室協議会」が20歳の成人式を迎えました。あたかも、「日本医学図書館協会」を親とも慕うがごとく学び20年が経過しました。近畿病図協（近畿病院図書室協議会）の会員数は増え、全国には幾つかの地域ネットワークも生まれました。

近畿病図協は確実に相互の協力と啓蒙の実を上げ、その近畿病図協の一員として近畿病図協の確かな成長に大いなる感激を覚えます。

大学図書館で学び送り出されて来た医療人の受け皿としての病院図書室は蔵書数等大学図書館に及ぶべくもありませんが、卒後教育の役割の一端を担うものであることは間違いないと考えます。疾病、医薬品、医療機器ほか、医療を取り巻く環境は常に変化しています。それらの情報を求めて図書室が利用されます。情報提供システムも変化しています。近畿病図協では各種の情報を会誌で伝えてくれます。研修会で技術の実習の場を提供してくれます。会員間の雑誌所在目録を作成配布してくれます。これで私達の仕事にはこと足ります。近畿病図協の一員でいれば受身でいても時代に遅れることはないとの20年の経験で知りました。

かくして近畿病図協の傘の下での安住を決め込んでいますが、世界は広いとばかりに来年ワシントンで開催される第7回国際医学図書館会議の案内を戴きました。5年に一度のことであり同時にアメリカ医学図書館協会の年次総会にも触れることができるということで、全くの言葉の不自由さも顧みず自らのリ

フレッシュに役立つならば参加しようかと思ったりします。案内の一部を紹介すると、The 7th International Congress Medical Librarianship(7ICML) will be held in Washington, DC, May 10-12, 1995, following the 95th Annual Meeting of the Medical Library Association(MLA '95). Come to Washington in 1995 for the extraordinary opportunity to attend these two meetings in one week. Both meetings share the theme "Health Information for the Global Village".

この20年、医療情報・医療情報システムは大いに変化しました。これに伴い図書室にはコンピューターが支配する機械類が幅をきかせています。過去、本の番人ともいわれた図書室のイメージが確実に変わりつつあります。このまぎれもない変化の中において我身を振り返った時、近畿病図協の成長に比しどれほどの成長があったのか忸怩たる思いを持ちます。個人としていささかでも成長したいと望みます。

感化されて

阪和記念会館図書室
佃 貴美子

大学で司書課程を選択していた私が、幸運にも司書の仕事に就くことになったのは、もう何年も前の春のことです。資格を生かせる仕事に就ける喜びと期待で胸はずませていました。しかし、実際実務となると、学んできた図書館学はあまり役に立たず、たくさんの重い医学書に囲まれて不安な毎日を過ごしていました。

 声・担当者に聞く

職場に同じ仕事をする人がいない孤独を感じ始めた頃、病図協の研修会に参加させていただき、私だけでなく、みんなそれぞれの図書室でユーザーの期待にこたえられるようがんばっていることを知り、自分のすべき仕事を学んだように思いました。

研修会に参加することは、私にとって、その内容のみならず、日頃、電話だけのつながりだった人達との触れ合いを作る大きなメリットもありました。同じ仕事をしている仲間と接することで大いに感化されることが多々あり、互いの業務についての情報交換や、アドバイスをさせていただいたりする接点の輪を広げていってくれるものでした。

1988年度には何もわからないまま幹事という大役を務めさせていただきました。その時、幹事会に出席し、私には難しい高度な話し合いが行われているのを聞くにつけ、こういった諸先輩方の意見が反映されて、病図協の一步一步の発展があり、今日があるのだと思いました。

設立20周年を迎え、会員数も増加しつづけています。これからもたくさんのお会いを大切にしそれぞれの病院図書室が協力していかなくてはならないと思います。

この会をここまで育ててこられた役員各位のご努力に感謝するとともに、全国の病院図書室の充実、発展のため、今後力発揮していただきますことを願っております。

病図協設立20周年、おめでとうございます。まだ入会3年目の私にとっては気の遠くなるような期間ですし、先輩諸氏の普段のご努力は如何ばかりでしたでしょうか。

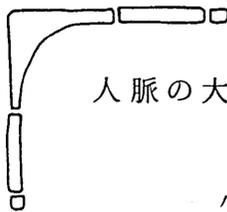
思い起こせば、5年前に図書室を開設し、その特殊性に戸惑っている時に、第一回名古屋研修会のお誘いを受け、小規模図書室でもどんなようにも向上発展させていけることに驚かされ、担当者としての責任や努力を認識させられました。

それ以後、できる範囲内で参加して、図書室業務について少しずつ勉強させていただき、病図協のおかげで、遅々たる歩みではありますが、当図書室も少しずつ形を整えてきたような気がします。

特に昨年4月からの相互貸借については会員の皆様に本当にお世話になり、助けられています。最近では検索に始まり、文献依頼に終わるといった日々が増えつつあり、もし入会していなかったらどうなっていたことでしょうか。悲しいかな、設立後、日も浅い図書室故、製本雑誌の所蔵も少なく、依頼件数が必然的に多くなり、受付をあまり供給できないというアンバランスな状態になっており、本当に申し訳なく思っております。

諸処の研修会などに参加し、同じ立場の人達と多少なりとも知り合いになり、不明な点を教えてもらったり、色々な悩みを相談したり、文献依頼をお願いしたり、人脈の大切さを痛感している今日この頃です。

まだまだ皆様のお力をお借りする一方の未熟な私ですが、今後もより良い図書室サービスを提供するために何をすべきか勉強させていただきたいと願っております。



人脈の大切さ

小牧市民病院図書室
足立 郁子

